

単元名 元気のおまもり(立体)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 元気が出る形に合った、形や色を見付け工夫して表すことができる。
 (2) 形や色の感じ、それらの組み合わせを考え、自分がイメージした「元気のおまもり」を考えるとともに、自分や友達作品のよさや面白さ、工夫などを感じ取り自分の見方や考え方を広げることができる。
 (3) 自分や周りの人が元気になれるような形をつくり出す活動に、主体的に取り組もうとする。

標準的な展開例

04080201_001

【準備等】紙粘土、粘土板、へら、水彩絵の具など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 自分やみんなの元気が出るような形や色を考える。 ○元気な時と元気がない時について話し合う。 ・花を見ると元気が出る。 ・友達と遊んでいると元気になる。 ○作品を見て、気付いたことを話し合う。 ・キノコから元気をもらっている。 ・心のねじで、自分の気持ちを表している。 ・海の花は見ていると、心が落ち着く。 ★元気がでる形をつくろう 2 話し合ったことから、元気が出るような形や色を考える ○形の構想を練り、アイデアスケッチに表す。 3～4 紙粘土で形をつくる。色を塗ったり、様々な材料を組み合わせて、自分の想像した世界を立体に表す。 ○表現を工夫しながら、紙粘土で表現し、彩色する。 5 作品を友達と見合い、話し合う。 ○自分がイメージした「元気のおまもり」を発表し、共有する。	・教科書3・4下 P.30, 31 ・教科書の作品を参考に話し合う。 【評】元気が出る形はどのようなものか主体的に話し合う活動から、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・アイデアスケッチの段階で、児童の表したい「元気のおまもり」の形を考えさせ、彩色などの表現方法も考えさせる。 【評】「元気のおまもり」の形を自分なりに考え、工夫して絵に表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・自分が表現したい形に近づけるには、どのように形や色を工夫するとよいのか考えさせる ・紙粘土の基本的な扱い方、水彩絵の具の使い方を確認する。 【評】表したい形になるように、形や色を工夫する活動から、「知識・技能」を評価する。 ・元気が出る形は人によって違うことを確認する。 【評】自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、工夫などに気付き、自分の見方や考え方を広げていく活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について

A-(4)「自分の成長に気付き、長所を伸ばすこと。」と関連が深い。自分がどういうときに元気が出るのか、といったことを見つめながら表現したことを、道徳の学習につなげたい。